

絶壁を開かれ、驛舍を定給ひて、木曾路の行程川支の憂なく、億兆の士民其恩澤を蒙奉ること實道廣き御代とは此時なるかな。

〔和漢三才圖會七十図〕同至江戸 木曾街道

大坂記于十六里前委 江州草津三里 半守山三里半 鏡山半 里

鳥居本一里餘自此出

行北國道

番場一里

醒井半一里

柏原一里

美濃居宣

不破關

關ヶ原一里

垂井二里十赤坂二里八町

美江寺一里六町

河戸半一里

加納四里

鷺沼ニ里

太田二里舟渡

伏見一

御嶽三里細久手二里

大久手三里半

大井二里半

中津川一里

落合一里

有橋此信美之

福島女改關所一里半有

宮腰二里

藪原一里半

奈良井一里半

鳥居峠

贊川二里

是迄木曾路

元山三十町

洗馬

三留野二里半

野尻一里半

須原三里九町

有寐覺臨川寺

上松二里

鹽尻三里諫訪湖水有

和田二里有

中窪一里半

蘆田一里半餘

望月一里

八幡一里

鹽

灘一里岩田村一里小田井一里

追分一里

沓掛一里

輕井澤二里半

上州信州

坂

本

略○下

〔木曾古道記〕一古道

馬籠妻籠御殿興川長野池尻掛橋東野吉野風越德原川上大原原

野宮越藪原奈良井贊川

〔京都午睡三編上〕東海道、木曾街道は、馬駕籠とも自由なり、一時木曾の宮の腰にて雨催ひして、風烈しければ心急ぎ、茶店にて馬を拵らへさせしに、馬牝馬にて、馬士も十七八の女なり、蓑笠にて出づれば、男女やらわかるべからず、茶屋の店より馬に乗る所、世話する者も女なり、藪原の驛を過て、鳥井峠の絶頂まで三里餘の道を、日の七ツ時より追ふて行、還りは又藪原にて荷物を附て歸り、夜の四ツにもなるべし、纔三百文計の錢を儲んとて、若き女の雨風をこと共せず行事也。